テーマ 探究 × 産学官連携

地域創造、地域人材の育成、地域定着。それぞれの想いをつなげ、生徒の活動を支援

新潟県立長岡向陵高校

〈長岡向陵高校の探究学習〉同校は2024年度から、それまでの探究学習を体系化した「ＳＫＩＰ（聡慧探究プロジェクト）」（＊１）を実施。生徒は、１年次１学期は身近な人の悩みなどを基に設定した課題に、２・３学期は企業・大学等から提示されたミッションにグループで取り組む。２年次は大学・企業等のメンターから助言を受けながら、生徒が自ら地域の課題を見いだして探究する。３年次は２年間の探究学習をまとめ、希望進路の実現につなげる。いずれも校外の多様な人とかかわりながら探究学習を深めていくのが特徴だ。

つながりの目的

大人の様々な想いや生き方に、生徒が触れる機会を設けたい

中村　本校は、２０２０年度から「総合的な探究の時間」を先行実施し、グローカルマーケティング株式会社の協力を得て、地域企業とのつながりを通じ、生徒が社会参画に対する意識を高めることを目的に探究学習を行ってきました。

私は23年度に本校に赴任し、その取り組みに大きな可能性を感じました。地域や企業が抱える問題を解決するためには、現場を見て、そこにかかわる人の想いを知ることが重要です。それを実現できる同社の協力は得がたいものです。探究学習だけでなく、生徒が校外の多様な大人と出会い、生き方や働き方を考えることができる機会を増やそうと、年間を通じて様々な魅力的な大人と出会う機会を設けています。

探究学習にこうかかわった

地域で熱い想いを持って働く大人と生徒をつなぐ

大澤　地域創造をビジョンに掲げ、地域企業のマーケティングや人材採用・育成

＊１　So-Kei Inquiry Projectの略。同校が生徒会を「聡慧会」と呼ぶことに由来する。

などを支援する当社は、21年に産学連携推進室を設けました。同校からは、年間を通じた探究学習の支援を委託されています。1年次は、生徒の興味・関心を基に設定したテーマに該当する地域企業等を選んで協力を打診し、企業等の想いや抱えている課題を踏まえつつ、生徒が熱中しそうなミッションを一緒に考えます。例えば、株式会社プラントフォーム（＊2）は「廃棄野菜を活用した商品の考案」、長岡市観光企画課は「雪国植物園の魅力を若い層にも伝えるPR素材の作成」をミッションにしました。2年次は、生徒の希望進路が多い分野を中心に大学教員等から助言を受け、個人探究を進めます。大切にしているのは、目的や想いを共有し、企業、学校、行政など、かかわるすべての人々のニーズに合致する三方よしのコーディネートです。

また、生徒だけでなく先生方にも探究の場をご提案し、産学官金が集う展示会「MatchingHUB長岡」に、同校は23年からご出展いただいています。過去の開催実績を見ても、高校としては同校が唯一の参加です。探究学習の認知拡大に加え、連携企業等の開拓にもつながり、先生自ら挑戦される姿勢に私たちも感銘を受けました。

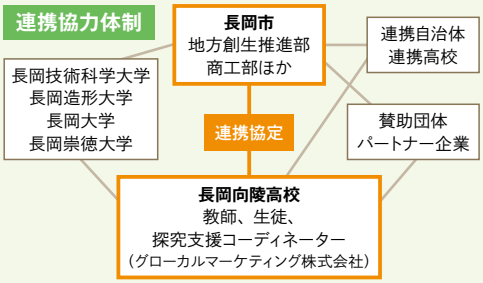
間嶋　本市は、未来の地域を担う若者の定着が課題です。進学等で本市を離れてもいずれ戻ってきてもらえるよう、小・中学生に郷土愛を育む取り組みを行っています。高校生にも本市の産業や企業を知ってもらい、将来、職業を選ぶ際の選択肢の1つにしてほしいという想いから、大澤さんからの提案を快諾し、同校の探究学習に参画しています。

私は学校連携に関する市役所内の窓口を担当しており、同校の希望に合った課や職員を選んで講師を依頼したり、探究学習に役立ちそうな市の施設や制度を紹介したりしています。例えば、今年度は、高校生や大学生等が取り組む市の活性化活動に上限5万円を補助する制度を設けました。それを同校に案内したところ、4件が採用され、生徒発案の講座やイベントが実現しました。また、市民向け講座を行う「まちなかキャンパス長岡」（＊3）は、同校の生徒の企画を支援し、生徒が探究学習で得たAIや食品ロスの知見を生かした講座を開催しました。市と学校をつなぐ役割の方がいることで、私は市役所内の取りまとめに集中し、学校の想いに沿った支援ができています。

つながりのPoint

連携協力体制の構築

2024年3月、同校は長岡市と「探究学習の推進に関する連携協定」を締結。それを機に、既に連携していた市内4大学や地域企業との連携体制をさらに強化した。それにより、大学・企業から同校へのメンターの協力を得られるようになったり、生徒が調査活動などで市の施設を利用する際の手続きがしやすくなったりした。また、大学と連携した講演も行いやすくなっている。24年度は、長岡造形大学の板垣順平准教授が1・2年生を対象に「デザイン思考」の講演を実施。探究学習に活用できる、新たな価値を探究し、創造するためのアプローチの方法などを、生徒が学ぶ機会となった。



※学校資料を基に編集部で作成。

今後の探究学習を展望する

担当者が異動しても連携を継続できる仕組みを築く

中村　地域に精通している方の支援により、魅力的な特徴を持つ企業等の方々に出会えました。様々な大人の想いや活動に刺激を受け、校外でイベントを開催したり、ワークショップに参加したりと、多様な活動をする生徒が徐々に増えています。そうした生徒を支え、より広い視点を示すため、「探究通信」を作成し、1年生の生徒や教師、ミッションを提供してくださる講師に発信しています。長岡市や市内の大学・企業との連携協力体制は強化されましたが、私も含め、担当者はいずれ異動します。枠組みが形骸化せず、生徒が地域と連携した探究学習を継続できるようにすることが、今後の課題です。

学校概要

設立　1983（昭和58）年
形態　全日制／普通科／共学
生徒数　1・2学年約200人、3学年約240人
2023年度卒業生進路実績
国公立大は、上越教育大、新潟大、富山大、信州大、埼玉大、三条市立大、長岡造形大、新潟県立大、新潟県立看護大などに64人が合格。私立大は、大東文化大、東洋大、日本大などに延べ98人が合格。

＊2　魚の養殖「Aquaculture」と野菜の水耕栽培「Hydroponics」を組み合わせた「アクアポニックス」に取り組む長岡市の企業。
＊3　長岡市内の4大学1高専と市民及び同市で構成する協議会が運営する「学びと交流の拠点」。